

# 平成27年（2015）1月 入域観光客数概況

1月の観光客数は、53万100人  
対前年（H26）同月比 +3万5,000人、+7.1%  
～1月の過去最高を記録、初の50万人台～

## 入域状況

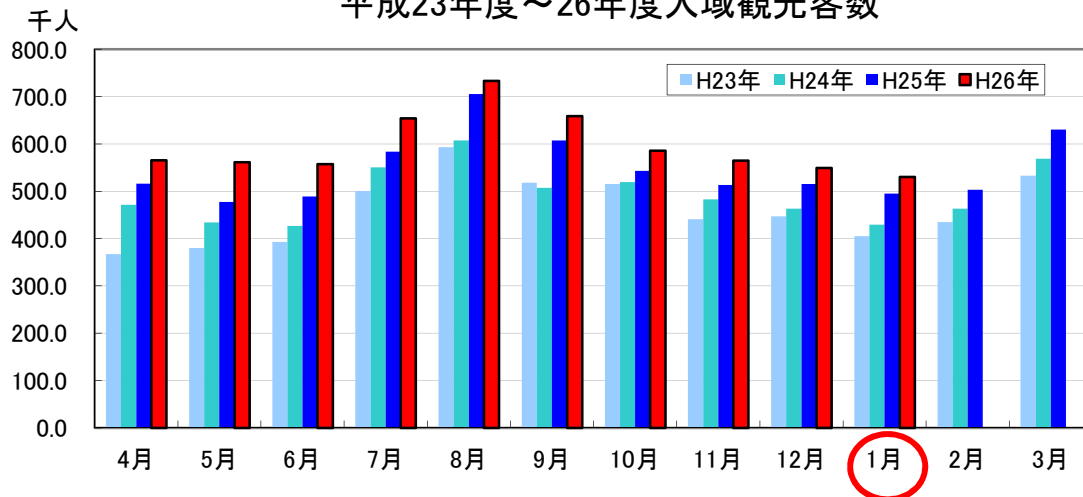
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	462,200 人	447,000 人	+ 15,200人	+ 3.4%	87.2%
外国客	67,900 人	48,100 人	+ 19,800人	+ 41.2%	12.8%
合計	530,100 人	495,100 人	+ 35,000人	+ 7.1%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	462,200 人	447,000 人	+ 15,200人	+ 3.4%	87.3%
外国客	67,500 人	44,500 人	+ 23,000人	+ 51.7%	12.7%
合計	529,700 人	491,500 人	+ 38,200人	+ 7.8%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



## 国内客 入域状況

1月は、上旬が年末年始・連休の旅行需要で好調であったことに加え、旅行会社主催のイベントや桜まつり等もあり、前年度を上回った。

2月は、例年オフシーズンのため鈍化傾向にあるが、プロ野球キャンプや伊良部大橋開通等の誘客効果により、増加する見込み。スカイマークの減便の影響がやや懸念される。

## 外国客 入域状況

1月は、単月で初めて3万人を超えた韓国を中心に増加した。中国方面は、クルーズ船の寄港が無かったことから海路客が皆減となり、前年を下回った。

2月は、主要方面が春節（旧正月）を迎え旅行需要が高まること、またクルーズ船の寄港やピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航も予定されていることから、空路・海路ともに増加する見込み。

## 国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	226,100 人	226,700 人	△ 600人	△ 0.3%	48.9%
関西方面	89,500 人	81,400 人	+ 8,100人	+ 10.0%	19.4%
福岡方面	61,100 人	55,200 人	+ 5,900人	+ 10.7%	13.2%
名古屋	36,200 人	35,700 人	+ 500人	+ 1.4%	7.8%
その他	49,300 人	48,000 人	+ 1,300人	+ 2.7%	10.7%
合計	462,200 人	447,000 人	+ 15,200人	+ 3.4%	100.0%

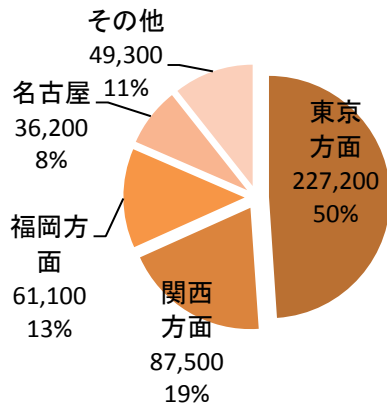
※国内海路客2,900人を含む(鹿児島2,400人、その他500人)

## 外国客 国籍別入域状況

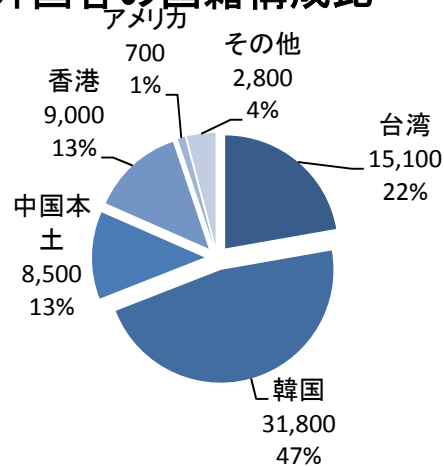
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	15,100 人	15,100 人	11,200 人	+ 3,900人	+34.8%	22.2%
韓国	31,800 人	31,800 人	15,000 人	+ 16,800人	+112.0%	46.8%
中国本土	8,500 人	8,500 人	11,500 人	△ 3,000人	△26.1%	12.5%
香港	9,000 人	9,000 人	5,200 人	+ 3,800人	+73.1%	13.3%
アメリカ	700 人	700 人	500 人	+ 200人	+40.0%	1.0%
その他	2,800 人	2,400 人	4,700 人	△ 1,900人	△40.4%	4.1%
合計	67,900 人	67,500 人	48,100 人	+ 19,800人	+41.2%	100.0%

### 国内客の地域構成比



### 外国客の国籍構成比



## 外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	15,100 人	15,100 人	+34.8%	22.4%	0 人	0 人	-	0.0%
韓国	31,800 人	31,800 人	+113.4%	47.3%	0 人	0 人	皆減	0.0%
中国本土	8,500 人	8,500 人	+123.7%	12.6%	0 人	0 人	皆減	0.0%
香港	9,000 人	9,000 人	+73.1%	13.4%	0 人	0 人	-	0.0%
アメリカ	700 人	700 人	+40.0%	1.0%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	2,200 人	2,200 人	+10.0%	3.3%	600 人	200 人	△77.8%	100.0%
合計	67,300 人	67,300 人	+79.0%	100.0%	600 人	200 人	△94.3%	100.0%

## 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

1月は、羽田からの入込は増加したものの、JAL・スカイマークの運休やLCCがほぼ前年度並みとなったことにより、成田からの入込が減少し、前年度並みとなった。  
2月以降は、他地域との競合により予約状況がやや鈍化しているが、プロ野球キャンプ見学・卒業旅行等の需要による入込が期待出来る。

### 大阪

1月は、提供座席が増加した伊丹－那覇路線及びLCCが好調であったことや、直前での予約が増えたことも押し上げ要因となり、前年度を上回った。  
2月以降は、予約状況が好調に推移していることから、増加する見込み。スカイマークの神戸－那覇路線で減便が予定されており、影響を注視する必要がある。

### 福岡

1月は、期間全体を通じ好調に推移し、前年度を上回った。パッケージ商品やスポーツ大会等による団体需要が好調であった。  
2月以降は、福岡－那覇路線でスカイマークの減便(4→2便/日)が予定されているが、他社の増便等により前年並みの提供座席は確保される見込み。

### 名古屋

1月は、一部航空会社は不調であったものの、旅行商品の初売りセール等の誘客効果もあり、前年同月より増加した。  
2月以降は、スカイマークの名古屋－那覇路線の減便(2→1便/日)による影響が懸念されるものの、春休み等の旅行需要により入込は前年度並みを維持する見込み。

### 台湾

1月は、冬のオフシーズンとなり夏場に比べ鈍化するが、航空路線拡充の影響により、空路客が増加し、前年度を上回った。  
2月は、春節の時期に台北－那覇・台北－石垣間のチャーター便や機材の大型化が予定されていることから、好調に推移する見込み。

### 韓国

1月は、冬休みに加え、ゴルフやインセンティブ旅行等の需要もあり、前年度を上回った。単月で初の3万人台を記録した。LCC2社の新規就航が需要喚起にも寄与しているもよう。  
2月は、冬季の旅行需要と航空路線の拡充を背景に引き続き好調に推移する見込み。旧正月に予定されている宮古・石垣チャーター便もほぼ満席となっている。

### 中国本土・北京

1月は、尖閣諸島関連の反動と春節の影響により大幅増となった前年同月を下回った。  
2月は、春節と消費税免税対象の拡大によるショッピング需要等により、好調に推移する見込み。首都航空の西安－那覇チャーターが就航することから、中国内陸部からの入込増が期待出来る。

### 中国本土・上海

1月は、空路客は増加したが、クルーズ船の寄港が無く海路客が皆減となったため、前年度より減少した。  
2月は、春節の旅行需要に加え、クルーズ船の寄港が予定されていることから、空路・海路ともに増加する見込み。春節時期には、チャーター便(福州－那覇)が予定されている。

### 香港

1月は、2月の春節前で団体・個人旅行ともに需要が落ち着いたものの、沖縄方面を含め訪日旅行が好調であることから、前年同月を上回った。  
2月以降は、ピーチアビエーションの香港－那覇路線の新規就航が予定されていることから、空路客を中心に増加する見込み。LCCの就航により、新たな客層の獲得も期待出来る。